

第2次白山市総合計画が始動した2017年

議場での提言が 相次いで市政の表舞台に



昨年は2026年まで10年間の第2次白山市総合計画の初年度でした。「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」という基本理念の下、すでに、さまざま施策が動き出していますが、とりわけ感慨深いのは、私が議会で提唱し続けた施策がいくつも始動し始めたことです。

3月には、各種届出、申請の市民窓口を市役所1階に集約したほか、7月には

外観がガラス張りとなって装いが一新する松任文化会館の大規模改修が着工しました。写真は完成予想図です。

4月は、自民党の茂木敏充政調会長(当時)が北陸新幹線白山総合車両所を訪れ、同車両所を産業観光振興に活用するためのプロジェクトチーム設置を表明し、鉄道のまち白山の未来像をかねてから具申していた私にとっては誇らしい出来事でした。

一昨年秋の一般質問で求めた「松任ふるさと館」の大規模改修についても、今年度、194万円余の基礎調査費が計上されたほか、3年先までの詳細設計、改修工事に多額の事業費を投じることが市中中期計画に盛り込まれ、バリアフリーや建具、台所などの改修により、当市の迎賓館として生まれ変わる道筋が見えたことが喜びにたえません。

ほかにも、JR松任駅と松任海浜温泉を結ぶ無料送迎車の運行延長など、これまでの議員活動で訴えてきた多彩な政策が輪郭を現しており、議長席に座る身となって、ひととき印象的な1年となりました。



こども版の総合計画発刊 教室での副読本にも

私が一般質問で求めた小中学生向けの政策ガイドが「こども版・第2次白山市総合計画」の冊子となって実現しました。教育の充実が行政の最優先課題です。とりわけ、地域の将来像を、子どもたちに平易に説く取り組みは郷土愛を育むうえでもきわめて重要と考えます。

こうした私案をもとに「マンガも交えた読みやすい政策ガイドを子ども向けに制作しては」と具申したところ、昨年12月に「こども版」の総合計画冊子となって日の目を見ました。カラーのイラストを多彩にデザインした冊子には、白山市の将来像が楽しく描かれており、今後、地域学習の副読本として活用されていくのが楽しみです。



●皇太子さまのご視察をお出迎え

昨年6月の10日。ご来県していた皇太子さまが白山市の千代女の里俳句館をご視察になり、谷本正憲知事や山田憲昭市長とともにお出迎えしたことが光栄であり、昨年、最も感動を覚えた場面でした。

昨年も押し迫って、天皇陛下の御退位が来年4月と決定し、これに伴って新天皇に即位される皇太子さまに間近でお目にかかれたことは何にもまして身の誉れであり、議長冥利に尽きる1日となりました。



●10月にドイツ、フランス、アイルランドを訪問



昨年の10月9日から1週間の日程で欧州3か国を訪問してきました。最初に訪れたドイツ・ラウンハイム市では、白山市との友好関係20周年を祝って、トーマス・ユーヘ市長とさらなる友好促進を誓い合い、有意義な訪問となりました。

山田市長を団長とする欧州訪問団は続いて、白山市の世界ジオパーク認定に向けた働きかけを目的に、フランス・パリの国連教育科学文化機関（ユネスコ）を表敬訪問し、アイルランドの世界ジオパーク先進地も視察しました。

今回の訪問では、ラウンハイム市が世界の友好都市6市と結んでいる「都市間ネットワーク」に白山市も加入することを宣言しており、白山市の国際化促進に有意義な成果が得られたことをご報告しておきます。

写真は通訳を間に山田市長、手前後ろ姿のユネスコ・ジオパークセクションのチーフと懇談している様子です。

政策を前に進める突破力を磨きます

議会には行政のお目付け、ときにはゆき過ぎた政策の歯止めとなる使命がありますが、一方では、行政に寄り添う市政執行の両輪としての大きな役割も担っています。

私は4期目を迎えた今も、こうした議会、議員のあるべき姿を希求しようと心を砕いています。旧松任地区では、JR松任駅近くでの交番設置など、なかなか実現しない課題を積み残していますが、それゆえに今後も政策を前に進める突破力をつちかい、公平でかたよりのない市政の一翼であり続けます。